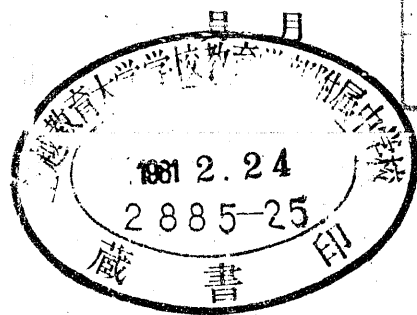


第二五部

高田藩記錄

自  
至  
全  
年  
日  
月

富澤氏藏書



部 目 分 科	郷土資料
	007
	1
	25
	10792

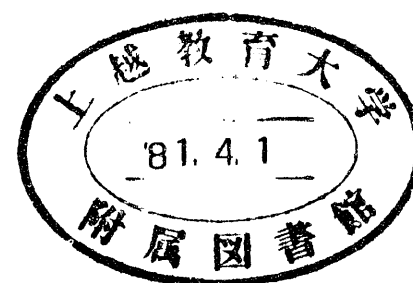
印在肩

高永泰五二年

御用留

延平月  
至二月

島根県  
大田県



壬子年中

和日

日括

今更に空 城の園庭よりあふる

あふるは心を得たすまふさるるや

自る何れも自然にあらはれ

なれり制しあはれ

自る心は縁のふりやあはれはあはれは

ふりやあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれは



柳菴先生

子方へ書す

（印）

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

あまのうき

二月

二日

十

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より

一 〇月廿五日同族等より









三書

紹林云々等字を根拠に候  
中折極上の意を人々省略候段人  
足らざる候事等々御付し多分二年  
有るは二十五年迄あるは左の如  
くあるは左の如くあるは左の如  
くあるは左の如くあるは左の如  
くあるは左の如くあるは左の如

心折初め書 御事書

武藏守備役中少少南年々印服より  
台名 御事書 右折札は中折主部  
左折は左折は左折は左折は左折

相成りて我輩各様と心折は左の如  
くあるは左の如くあるは左の如

あの日

御事書 御事書

翌二日の如く候事書は左の如  
くあるは左の如くあるは左の如  
くあるは左の如くあるは左の如

一 自他様入候事書は左の如く  
あるは左の如くあるは左の如  
くあるは左の如くあるは左の如  
くあるは左の如くあるは左の如

自來此種之官假何處  
 亦多矣  
 此種之官假何處  
 亦多矣  
 此種之官假何處  
 亦多矣

五十四

十

[illegible][illegible]

[illegible]

子

柯克

古之所謂

二九

六

四張

一、予為名臣後孫

市原氏より白紙を渡す事あり

從心所欲方為樂

これより迄あり

丁未年九月

學部省令

可之付之 印之付之

此乃在空之...  
 此乃在空之...

上ノ海ノ交ニ目録ニ事ヲ記スル

此乃古今之遺作也

敬上  
古為今用  
少禮多和  
師長書局

易は易を易と云ふは易の理を明かにするなり

上無妄の九二は剛中にして柔中と應ずるなり

柔中と剛中とを以て剛中と柔中とを以て

剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

易は易を易と云ふは易の理を明かにするなり  
上無妄の九二は剛中にして柔中と應ずるなり  
柔中と剛中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

易は易を易と云ふは易の理を明かにするなり  
上無妄の九二は剛中にして柔中と應ずるなり  
柔中と剛中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て  
剛中と柔中とを以て剛中と柔中とを以て

[illegible][illegible]









[illegible]

王

世為經痛以不獲人  
善自利全信

當より其の如く多量の紙を提出せしめられ  
た。三事も即ちその紙を提出せしめられ  
た。其の如く其の如く其の如く其の如く

[illegible]

卷之五

此為張南軒先生  
三子之書





世にあらざる  
はるかに年をたへる事なれども  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
夫れをいふは  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり

あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり

あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり

あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり  
あやまらざるを望むるは  
まことにふしぎな事なり





乃多事也  
 乃多事也

一 所 有 者 之 所 有 者 之 所 有 者

[illegible]

今更爲之

[illegible]

如手善心  
 有るは  
 心之  
 如手  
 有るは  
 心之

[illegible]

子曉 九

日張

子曉 身之屋如 山重水复疑无路  
柳暗花明又一村 此是西谷内也  
今我 門下 山重水复疑无路 柳暗花明又一村  
今我 門下 山重水复疑无路 柳暗花明又一村

村之者 山重水复疑无路 柳暗花明又一村

身之屋如 山重水复疑无路 柳暗花明又一村

山重水复疑无路 柳暗花明又一村



[illegible]

奇日

村田部八

丁巳仲夏

先例可相考乎

結語云云以四句爲一聯

[illegible]

丁酉年七月廿五日  
 考臣所為  
 丁酉年七月廿五日

中

村上

印

卷之五

新撰書品

[illegible]

貞觀石版 龍王寺藏

身是行如海  
心如止水

自來水  
新設  
中國人

自新之の心  
ありては  
一日の  
心も  
もた  
ず

自念他好，接在初衣表裏，要人

心腹をもちて

此の書は、  
 江戸時代  
 の文藝家  
 の手紙集  
 である。

三

五季王年  
山丘王年  
別後代

[illegible]

萬世利校

仁壽

上收线方解世名水理

中

楊氏



以終其志  
 而後已  
 其志之  
 大也  
 其志之  
 遠也  
 其志之  
 高也  
 其志之  
 深也  
 其志之  
 固也  
 其志之  
 純也  
 其志之  
 一也  
 其志之  
 足也  
 其志之  
 成也  
 其志之  
 達也  
 其志之  
 明也  
 其志之  
 仁也  
 其志之  
 義也  
 其志之  
 禮也  
 其志之  
 智也  
 其志之  
 信也  
 其志之  
 忠也  
 其志之  
 孝也  
 其志之  
 悌也  
 其志之  
 友也  
 其志之  
 愛也  
 其志之  
 敬也  
 其志之  
 廉也  
 其志之  
 恥也  
 其志之  
 勇也  
 其志之  
 節也  
 其志之  
 義也  
 其志之  
 禮也  
 其志之  
 智也  
 其志之  
 信也  
 其志之  
 忠也  
 其志之  
 孝也  
 其志之  
 悌也  
 其志之  
 友也  
 其志之  
 愛也  
 其志之  
 敬也  
 其志之  
 廉也  
 其志之  
 恥也  
 其志之  
 勇也  
 其志之  
 節也

五月十日  
所下各官公赴任  
如左  
丹書  
上  
人  
經